



2022年10月31日

各位

会社名 ダブル・スコープ株式会社
代表者名 代表取締役社長 崔元根
(コード番号 6619 東証プライム)
問合せ先 取締役 大内秀雄
(<https://w-scope.co.jp/ir/contact.html>)

業績予想の修正および営業外損益の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2022年7月25日付で公表しました2022年12月期通期連結業績予想を下記の通り修正し、それに伴い、2022年12月期第3四半期において営業外損益(為替評価差益)を計上することとなりますので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2022年12月期通期連結業績予想数値の修正(2022年1月1日～2022年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	44,000	5,500	6,000	3,000	54.40
今回修正予想(B)	44,000	7,000	8,600	4,100	74.35
増減額(B-A)	—	1,500	2,600	1,100	
増減率(%)	—	27.2	43.3	36.6	
(ご参考)前期実績 (2021年12月期通期)	29,966	1,898	△3,411	△2,943	△56.67

2. 修正の理由

2022年12月期下期の売上高は、民生系用途及び車載系用途ともに2022年12月期上期のトレンドが継続し、主要顧客の需要が安定して伸びていることから、販売数量、販売価格ともに前回の業績予想どおりに推移する見込みです。また、当第3四半期までの平均為替レート(対USD)が127.97円/USDであったことから、当第4四半期も現在の水準で推移する想定で、連結売上高は2022年7月25日でお知らせした業績予想の水準を維持する見込みです。

製造原価については、昨年同期から順次稼働した新規EV用製膜ラインに加えてコーティングライン増設により

原価率の改善が継続していることから、上半期までの歩留まり率の改善が下期も継続しています。また、韓国ウォンに対する為替レートはドル円と比較し変動が軽微(当第3四半期平均為替レート0.1009円/ウォン)であり、当第4四半期も現在の水準で推移していく想定で、通期の営業利益率改善が継続する見込みです。

また、当第3四半期(累計)でUSD建て債権債務で為替評価差益(営業外収益)2,000百万円を計上する見込みとなったため、経常利益においても修正いたしました。

【業績予想に関する留意事項】

業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上